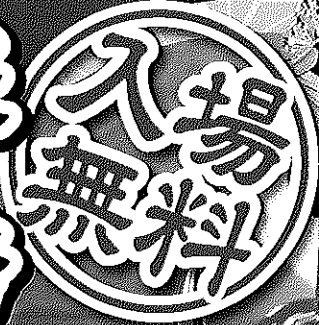


呉松の大念仏

雄踏歌舞伎万人講

第20回 静岡県民俗芸能 フエステイバルin浜松

地域の想い 地域の絆 次世代へツナグ



寺野のひよんどり

浜松市立清竜中学校

プログラム

- 12:00ー開場
- 12:30ー雄踏歌舞伎万人講「寿式三番叟」
開会式
シンポジウム
浜松市立清竜中学校
呉松の大念仏
寺野のひよんどり
- 16:00ー終演

平成29年

1月22日日

午後0時30分開演

浜松市雄踏文化センター大ホール
(浜松市西区雄踏町宇布見5427)

【主催】静岡県教育委員会、静岡県文化財保存協会、浜松市
 【協力】県下J A・静岡県信連
 【後援】全国民俗芸能保存振興市町村連盟、静岡新聞社・静岡放送、
 中日新聞東海本社、公益社団法人全日本郷土芸能協会
 【問合せ】浜松市市民部文化財課 〒430-8652 浜松市中区元城町 103-2 電話 053-457-2466
 E-mail bunkazai@city.hamamatsu.shizuoka.jp

【芸能解説】民俗学者 中村羊一郎氏

第20回 静岡県民俗芸能フェスティバルin浜松

～地域の想い 地域の絆 次世代へツナグ～

今年度は、天竜川や浜名湖に代表される豊かな自然に恵まれ、地域において連綿と受け継がれてきた無形の民俗文化財が多くある浜松市の民俗芸能を披露します。

近年、全国的な少子高齢化の進行や中山間地域の過疎化などによる後継者不足の問題をはじめ、取り巻く環境は厳しい状況となっています。このような中、浜松市では平成25年に、ひよんどり、おくない、農村歌舞伎、田楽、神楽など、市内の19の保護団体により「浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会」が組織され、全市的なネットワークを構築して、情報共有するなど連携が進められてきました。

そして、浜松市議会平成28年2月定例会では、議員提案による「浜松市民俗芸能の継承及び振興に関する条例」が制定されました。市民、関係団体、市の連携を一層推進することで、継承活動の活性化を総合的に推進しようとするものです。

今回のフェスティバルでは「地域の想い 地域の絆 次世代へツナグ」をテーマとしてシンポジウムを開催するとともに、後継者育成に取り組んでいる芸能のほか、井伊家ゆかりのひよんどりの披露を予定しています。多くの方々のご来場をお待ちしています。

シンポジウム

テーマ

次世代へツナグ・後継者育成活動の現状と課題

「手をつなぐ浜松の民俗芸能～伝統の中に見える未来～」

- ・コーディネーター 柴田宏祐氏
(浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局長、元浜松市文化財保護審議会委員)
- ・総括パネリスト 上嶋裕志氏
(浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局長、三遠南信住民ネットワーク協議会)
- ・パネリスト 渥美位茂氏
(遠州大念仏保存会長、滝沢放歌踊り保存会、滝沢のおくない禰宜)
- ・パネリスト 前嶋 功氏
(浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会長、川名ひよんどり保存会長)
- ・パネリスト 高須登志江氏
(横尾歌舞伎保存会)
- ・パネリスト 浜松学院大学地域共創学科学生
(長期学外学修プログラムで勝坂自治会・保存会と共に勝坂神楽の舞の継承に取り組む)
- ・パネリスト 雄踏歌舞伎保存会「万人講」保存会員

会場アクセス

雄踏文化センター

静岡県浜松市西区雄踏町宇布見 5427

- 交通アクセス
- 遠鉄バス
 - 浜松駅より宇布見山崎行きへ乗り、宇布見領家下車 北へ徒歩 5分
 - JR 舞阪駅より浜松駅行きへ乗り、雄踏中学下車 北へ徒歩 15分

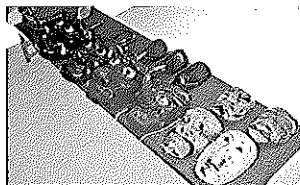
参加団体のご紹介

ゆうとうかぶき まんにんこう
雄踏歌舞伎「万人講」



雄踏における地芝居「万人講」は、江戸時代の末期に始まり、明治・大正・昭和にかけて、村の祭典の余興や、近隣の村を小屋掛け興行するなど、盛んに行われていました。戦前には「喜楽座」はじめ、常設の芝居小屋・劇場が相次いで建設され、身近な娯楽として地芝居が日常生活に溶け込んでいましたが、昭和27年を最後に途絶えてしまいました。その後、平成元年に雄踏文化センターが竣工したのを機に、以前、万人講に参加していた者を中心にして保存会が設立され、役者・裏方・鑑賞者と一体化した地芝居の文化が復活しました。現在、1月第3日曜日に定期公演を開催しています。

はままつりつせいらゆうちゅうがっこう
浜松市立清竜中学校



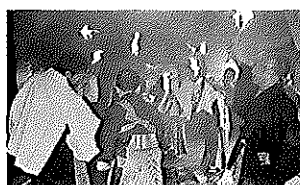
浜松市立清竜中学校は、1年生全員で学区内に伝わる民俗芸能「懐山のおくない」「神澤おくない」「遠州大念仏」を学び、2学期後半に校内発表会を行っています。生徒たちは先輩や地域の人たちから舞や笛・太鼓の演奏を学ぶことで、学校生活の中で地域の民俗芸能を知る貴重な体験をしています。近年、正月3日の「懐山のおくない」と、正月4日の「神澤おくない」にも生徒が参加しています。堂内に笛や太鼓の音を響かせ、五穀豊穡や子孫繁栄を祈る舞を奉納することで、堂々と継承の役割を担っています。

くれまつ だいねんぶつ
呉松の大念仏



(静岡県指定無形民俗文化財)
呉松の大念仏は、遠州大念仏の一派に数えられていますが、その起源や修法は他の組とは異なっています。地元には、籠山寺にある弘法大師が開いたといわれる洞穴に遊行僧の弾誓上人がとどまり人々に教えたという説などが伝えられています。昭和32年県指定無形民俗文化財となりましたが、昭和40年頃後継者不足により活動休止に追い込まれました。その後、自治会主催により保存会が結成され、平成11年8月13日に初盆回向が復活し、現在に至っています。

てらの
寺野のひよんどり



(国指定重要無形民俗文化財)
寺野のひよんどりは、宝蔵寺観音堂(通称三日堂)で正月3日に行われている五穀豊穡を祈る春祈禱の祭です。その起源は定かではありませんが、寺野の祖といわれる伊藤刑部祐雄が入植した元亀年間(1570～1573)頃に始めたと考えられています。観音堂の外陣において一向が松明を持って輪になって踊る火踊りが印象的なことから、それがなまって「ひよんどり」という名称になったといわれています。現在、寺野地区全戸が会員となって保存会が組織され、昔の型を崩すことなく継承に努めています。【寺野は、直虎の許嫁である直親が寄進した「青葉の笛」を伝えている「井伊家ゆかりの里」でもあります。】

